

只見町から環境を守る 新聞レジ袋づくり教室

只見町教育委員会主催の「中学生による新聞レジ袋教室」が、8月1日(日)午前・午後、2日(月)午前の計3回開催されました。

昨年も実施された新聞レジ袋教室はとても好評で、今回は新型コロナウイルス感染症予防のため、現地参加以外に、ただみコミュニティクラブのご協力でもオンライン参加も実施し、ふるさと大使の方々も参加されました。

参加された方は、「新聞紙のレジ袋を使って、知人に野菜などをプレゼントしたい」と感想を話しました。



▲初日にはテレビ取材も入りました

身近に生息する生き物を学ぶ 子ども教室「ビオトープ観察会」



▲捕まえた生き物の説明を聞く児童

夏休み子ども教室イベント「ビオトープ観察会」が、8月6日に黒谷地内で開催され、町内の児童16人が参加しました。

児童は思い思いに生き物を探し、見つけた生き物はブナセンター職員の解説を聞きながら観察をしました。

今回の観察会で見つけた生き物は、オニヤンマやゲンゴロウ、ヒキガエル、ドジョウなど約20種類にもなりました。児童は様々な生き物が生息できる環境の大切さについて理解を深めました。

なんでもチャレンジ隊「夏休み体験講座」 「ダムと只見の自然について学ぼう」

「なんでもチャレンジ隊」の「夏休み体験講座」が8月7日(土)に行われ、チャレンジ隊に所属する児童のうち8人が参加しました。

今回の講座では、前半にJ-POWER 只見展示館においてダムの役割などについて学習し、後半はただみ・ブナと川のミュージアムにおいて、ブナセンター職員から只見町の動植物の生態系や企画展の内容について説明していただきました。

最後にはオリジナルのうちわをつくり、参加した児童からは「ブナセンターにヘビがいてビックリした。自分だけのうちわが作れて、とても楽しかった」との感想があり、楽しい夏休み体験講座となりました。



▲ブナセンターで説明を聞くなんでもチャレンジ隊

長岡藩家老 河井継之助をしのぶ 河井継之助墓前祭

「河井継之助墓前祭」が河井継之助の命日となる8月16日に医王寺で行われました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小し関係者を中心に執り行われました。

渡部仁一実行委員長の挨拶として、関係者や参列者へのお礼の言葉などが述べられた後、読経が行われました。

その後、渡部町長から「知見を深めた河井継之助に習い学び続け、それに裏打ちされた自信に基づいて行動していきたい」と追悼の言葉を述べられました。



▲追悼の言葉を述べる渡部町長

熱心に競技を楽しみました ニュースポーツ交流大会



▲真剣な表情で狙いを定め、周りもそれを見守りました

令和3年度南会津地区ふれあいニュースポーツ交流大会が、8月4日に只見町町民体育館で開催され、只見町老人クラブと南会津町老人クラブで各2チームずつの計4チームが参加しました。

競技は、囲碁ボール、ボッチャ、スカットボールの3競技に分かれての総当たり戦で行われ、隣町同士の勝負だけでなく同町同士の勝負もあり、とても白熱した大会となりました。

チームの垣根を超えて、応援や歓声があり、両町の絆も深まる大会となりました。

※ニュースポーツ(new sports)とは、20世紀後半以降に新しく考案・紹介されたスポーツ群をいいます。

たくさんのトンボが見つかりました ブナセンター観察会「真夏のトンボ観察会」

只見町ブナセンター主催の町内の親子向け「真夏のトンボ観察会」が、8月8日に開催し、3家族7名が参加しました。

参加者は町内の田んぼと溜め池の2ヵ所でトンボを探し、合計19種のトンボを観察しました。ブナセンター職員の太田祥作さんは「田んぼと溜め池には異なるトンボが生息していて、水辺で暮らすヤゴ（幼虫）の成長にかかる期間の違いとその間の水の有り無し等が関係している」と解説し、参加者の方は只見町のトンボの多様性に驚いていました。



▲田の脇の用水路で採取されたオニヤンマの解説を聞く参加者